

▲部活動内でのコミュニケーションや練習メニュー、練習時の動画を共有する機能も今後導入する

「スタートアップ」は私たちの身近な課題の解決に取り組んでいます

新しい技術やイノベーションは、自分にはあまり関係がないことだったり、難しく敬遠してしまったりするかもしれません。しかし、こうした新しい取り組みは、私たちの生活をより便利にしてくれる可能性を秘めています。市内で社会課題の解決に奮闘する企業の方に、お話を聞きました。

部活指導者と学校をアプリでつなぐ

株式会社BUKARU 代表取締役
もりた あつし
森田 教さん

学校の部活動の指導を、教員から地域にいる指導者に移す「地域移行」をスムーズに進めるため、学校と指導者をつなぐアプリ「BUKARU」を開発。どの地域においても生徒が部活動に取り組める環境づくりをサポートする



私は、パーソナルジムを運営していますが、コロナ禍をきっかけにプログラミング教室に通い始めました。今、学校での働き方改革が課題になっていますが、学校と地域の指導者をつなぐ支援ができないかと思い、アプリの構想を始めました。

現在は、道内にある複数の教育委員会と連携しながら実証実験をしています。重ねている段階です。学校の先生の負担を軽減するだけでなく、生徒にとってもアスリートなどの指導者に専門的な視点から教えてもらえる機会になります。

また、少子化に伴って、学校によっては陸上部はあるけれど野球部はないといった、特定の部活動しかない問題も生じています。そのため、アプリを通じて複数の学校の生徒をつなぎ、合同で練習できる体制もつくっていくなど、どの地域においても生徒がスポーツや文化活動に取り組める環境づくりをサポートして、スポーツや文化・教育を持続させる仕組みを構築していきたいです。

札幌発 新しい発想で世の中を変える「スタートアップ」

市内には、社会のさまざまな課題を新しいアイデアや斬新なビジネス形態で解決する企業がたくさんあります。今回の特集では、札幌発のスタートアップや施設の取り組みのほか、市が行っている支援策を紹介します。

詳細 イノベーション推進課 ☎211-2379

Q スタートアップとは？

A 一般的には、革新的なビジネス形態によって社会に変革（イノベーション）を生み出し、身近な課題を解決する企業のことです。

Q 行政機関や大学、民間企業がスタートアップを支援する理由を教えてください

A 国では、スタートアップが日本経済の成長のキーポイントになると考えています。また、札幌は多くの学生が、卒業後に道外企業へ就職している現状があるため、魅力的な企業を増やすことで、札幌に若い方が定着して、経済を活性化させることも狙いの一つです。

Q スタートアップがもっと盛り上がるために私たちができることは？

A まずは、私たちの身近な課題を解決するスタートアップが市内にたくさんあることを知ってほしいです。そして、スタートアップの取り組みを応援してもらえたらと思います。

「スタートアップ」について 専門家に聞きました

サッポロビジネスVILLAGE
Sapporo Business VILLAGE
リードインキュベーションマネージャー*/
スタートアップ・イノベーション
STARTUP HOKKAIDO実行委員会副委員長
ささきみちこ
佐々木 身智子さん

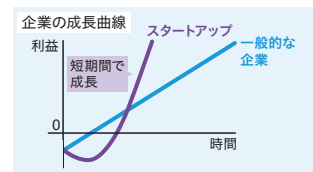
スタートアップが社会を変えるという信念の下、国内中小企業、スタートアップの成長支援に携わる。その他、北海道大学スタートアップ創出本部にて、スタートアップ創出アドバイザーも務めている

*インキュベーションマネージャー：起業家の育成や新しいビジネスを支援する人のこと



Q スタートアップの特徴は？

A 研究開発のためにお金を集めて、短期間での成長を目指します。



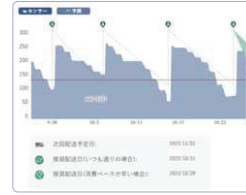
灯油配送の常識を変える

ゼロベック株式会社 代表取締役社長
ただみつお 多田 満朗さん

家庭の灯油タンクのキャップにセンサーを付けて灯油の残量を自動計測し、給油のタイミングを見極め、効率的に配送できる仕組みを開発。灯油を配送する企業と市民の生活を技術でサポートする



私は、以前勤めていた企業で、より正しい判断は数字やデータによってできることを学びました。ある日、ホームタンクに灯油を配送している方を見て、配送の仕組みが気になり調べてみると、タンク内の灯油が減っているかどうかにかかわらず、定期的に配送している場合が多いことが分かったんです。その時に、灯油の残量をデータで管理



▲センサーで取得した情報を基に、給油するタイミングを自動的に知らせる配送管理システム「GO NOW」も開発

できれば配送効率上がるのではと考え、「スマートオイルセンサー」を開発しました。2015年に創業し、現在、37の都道府県で、4万個以上のセンサーが灯油の配送企業を通じて設置されています。配送企業からは「1回の配送で給油量が30%以上増加した」「配送人員を1日平均3.3人から2.2人に減らせた」という報告もいただいていますね。配送時に車から出る二酸化炭素の量も減らせますし、人手不足の解消にも貢献しています。今後は高齢者の見守りや防犯への活用といったさらなる付加価値を付けて、個人向けの販売も進めていく予定です。

1日で生ごみを堆肥に分解

株式会社komham 代表取締役
にしやま 西山 すのさん

微生物群「コムハム」を活用し、独自に開発した生ごみ処理技術を提供する。電源や排水処理を必要とせず、ソーラー発電により自動でかき混ぜることができる独立型生ごみ処理機「スマートコンポスト」を開発した



私は、父が開発した、有機物を高速で分解する微生物群「コムハム」を継承し、あえて同族企業という形態を取らずに、0から1を作ることで、早いスピード感が求められるスタートアップとして2020年に創業しました。水分を多く含む生ごみは、燃やすと多くの二酸化炭素が発生しますし、通常のコンポストではかき混ぜる作業が手間だったり、堆肥となるまでに時間がかかって悪臭が発生したりする場合もあるなど、食品を扱う工場などで、処理に大きな課題が生じているんです。

独自に開発した「スマートコンポスト」では、わずか1日で98%の生ごみを分解処理することができ、それらの課題を解決できます。働くなら、自分のためだけでなく、社会のために働きたいと常々思っています。環境問題に取り組みとともに、手間のかかるものや淘汰されてしまうことを新たな技術や発想によって使い続けられるようにし、今ある文化や技術を次の世代につなげていきたいです。

未来の食料不足の危機に立ち向かう

フロートミール
Floatmeal株式会社 CEO
きたむら 北村 もあなさん

たんぱく質を豊富に含み、水質を改善する高い効果を持つ、ウォルフィア(Wolfia)という浮草(ウキクサ)を効率的に栽培する技術で、「食」「環境」の課題解決に挑む。現在、北海道大学大学院水産科学院に在学しており、大学で出会った仲間と本年5月に創業した



で、加工品としても活用が可能。飼料にもなります。環境に優しい次世代の食資源として、多くの人にウキクサを知ってもらい、栄養源の一つとして選んでもらえる商品を開発し、海外への進出も視野に入れて、新たな価値を世界に投じていきたいです。

私は、地球温暖化や将来的な食料不足の解決のために何か行動しなければという思いがずっとありました。大学2年生の時に、ウキクサの研究をしていたバングラデシユ出身のサジャッドさんと学内で出会い、二酸化炭素を吸収するほか、たんぱく質を豊富に含むウキクサに興味を持ちました。しかも、1日で量は約2倍に増えるんです。効率的に増やすことができれば、持続可能な社会の実現につながると思います、2人で共同出資して会社を設立し、現在は3人で事業化を目指しています。ウキクサは生でも食べられますし、乾燥させてパウダー状にもできるの



▲苦みや臭いは全くなく、生で食べると「シャキシャキ」とした食感がある

Floatmeal株式会社のオフィスがある施設
札幌市産業振興センター



ビジネスに挑戦する企業や個人を支援する市の公共施設であり、コワーキングスペースや貸会議室などを備えています。センター内にあるレンタルオフィス「Sapporo Business VILLAGE」では、インキュベーションマネージャーが常駐し、経営相談・情報提供など多方面から支援しています。

住所 白石区東札幌5の1
詳細 産業振興センター
☎817-8911



株式会社komhamのオフィスがある施設
札幌市エレクトロニクスセンター



IT・パイオ関連企業の研究開発や人材育成を支援。市の公共施設であり、貸会議室やレンタルオフィスなども備えています。

住所 厚別区下野幌テクノパーク
1
詳細 エレクトロニクスセンター
☎807-6000



▲オータムフェストの会場に設置した「スマートコンポスト」。分解処理された堆肥は今後大通公園の花壇に使われる



皆さんのアイデアや技術を市が育成・支援します

例えばこんな方



世の中の課題を解決したい



スタートアップに興味がある



アイデアはあるが行動に移せていない



自分が開発した技術を生かしたい

無料相談会を毎月開催

スタートアップ ホッカイドウ カフェ「STARTUP HOKKAIDO cafe」という無料の相談窓口を開設しています。皆さんの困り事を解決する支援が充実しているので、ぜひホームページでご確認ください。

STARTUP HOKKAIDO cafe

<p>会社の設立や補助金の相談 起業の手続きや補助金制度など</p>	<p>事業の相談 経営の改善、事業戦略など</p>	<p>会計士相談 財務会計、税務、資金計画など</p>	<p>弁護士相談 契約や経営する上での法的リスクなど</p>
<p>弁理士相談 商品やサービスの商標、意匠、知的財産権など</p>	<p>資金相談 融資のための事業計画の作り方、制度など</p>	<p>海外展開相談 海外輸出や海外展開、外国人採用など</p>	<p>ホームページ</p>

札幌市が北海道経済産業局、北海道と共同で「STARTUP HOKKAIDO」を設立。民間企業も参画する実行委員会を立ち上げ、オール北海道でスタートアップを支援しています。昨年度は、23のスタートアップが、投資家から計83億円の投資を受けるなど、札幌・北海道でのスタートアップの動きが加速。少しでも興味を持ったら、相談会やイベントに参加してみませんか。偶然的出会いや交流が、世界を変えるイノベーションを生むかもしれません。

小・中学生の起業家体験プログラムも実施

世界100カ国、85万人の子どもが受講した、シリコンバレー発のプログラム「BizWorld」を札幌で開催。課題から解決策を考えたり、集団の中で円滑なコミュニケーションを取って物事を進めたりするなど、社会に必要なスキルと起業家精神を学べます。

日時 1/11(木)12(金)10~17時。全2回
場所 space360 (中央区南1西6ジョブキタビル内)
対象 小学3年~中学3年24人
料金 無料
申込 1/4(木)までに右記コードから。抽選
詳細 イノベーション推進課 ☎211-2379



誰もが挑戦できる街へ

スタートアップが増えると、雇用が生まれ、経済の活性化はもちろん、若い方の活躍の場も広がります。また、私たちの暮らしをより豊かに変えてくれるでしょう。時には挑戦して失敗することもあるかもしれませんが、スタートアップをする人も、その挑戦を応援する人も、みんながチャレンジできる風土を一緒につくっていきませんか。



サツドラホールディングス株式会社
代表取締役社長 CEO
とみやま ひろし
富山 浩樹さん

地域企業が成長を支援 新たなビジネスが生まれる 環境づくり

2007年に株式会社サッポロドラッグストアに入社し、2015年5月に代表取締役社長に就任。2016年8月にはサツドラホールディングス株式会社を設立し代表取締役社長に就任。2023年9月15日現在、サツドラは調剤薬局などを含め202店舗、北海道共通ポイントカード「EZOCA」は約213万枚を発行

市内では、札幌・北海道が抱える課題の解決に向け、民間企業が主導で交流・ビジネスの創出を支援する取り組みも加速。場所の提供のみならず、ヒトやモノ、コトをつなぎ、新たな事業が生まれる環境をつくらうとする施設を運営する方にお話を聞きました。

企業が創る 地域の未来

人口減少・少子高齢化などさまざまな課題を抱える札幌・北海道。

この地を基点にビジネスを展開する私たちは、地域課題の解決に向け、地域をより魅力的な場へと発展させていくことが重要だと考えています。そこで「地域に関わるあらゆるヒト、モノ、コトをつなぎ、未来を豊かにする地域コネクティッドビジネス」を展開するため、未来への思いを持った人が交流・協業できる「EZOHUB SAPPORO」を2020年9月にスタートさせました。札幌が未来に進むためには、テクノロジーやアイデアで、多様なチャレンジができる環境づくりが重要です。札幌がスタートアップに最適な街となり、チャレンジするなら札幌・北海道と言ってもらえるように、企業や行政、学校などの既存の枠



【EZOHUB SAPPORO】

会員制の coworking space であり、1人での作業や WEB 会議、打ち合わせなど、用途に合わせた使用が可能。約3,500冊の本を取りそろえているほか、定期的にイベントが開催されるなど、出会いの集積の場となっている

を超え、スタートアップの支援をしていきたいと思っています。そして、私たちサツドラグループが持つ店舗や共通ポイントカード「EZOCA」といった資源を生かして、北海道で新たな事業モデルの構築を進め、日本、そして世界へと、スタートアップと共に未来を創ってきたいと思っています。